

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

国語

科目 古典探究

教科： 国語

科目： 古典探究

単位数： 3 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ C 組

教科担当者： (A組：松田信) (B組：脇本) (C組：脇本)

使用教科書： (『古典探究』大修館書店)

教科 国語

の目標：

- 【知識及び技能】 生涯にわたり必要な国語の知識や技能を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】 考察力・共感力・想像力を伸ばし、自らの思いを他者に的確に発信する能力を育てる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 国際的視野をもち、自国文化の担い手として社会に関わろうとする態度を養う。

科目 古典探究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたり必要な国語・古典の知識や技能を身につけるとともに、我が国の古典を主体的に読み、理解を深めることができるようにする。	古典作品において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	古典がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって我が国の文化の担い手である教養人として、言葉を通して他者や国際社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・ 聞	書	読					
1 学 期	A★古文を深く理解する ★和歌を詠む ★用言・助動詞の復習	「小野篁、広牙のこと」 「花は盛りに」 『玉勝間』 『方丈記』 『伊勢物語』 ○便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。	○	○	○	20
	B★漢文を深く理解する ★漢語の句形の復習 ★漢字に強くなる	故事・逸話 「漱石枕流」「塞翁が馬」 思想 「孔子・孟子・荀子・韓非子」 ○便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。	○	○	○	20
	定期考査						○	○		2
2 学 期	A★平安文化を理解する ★和歌を理解する ★助動詞・敬語の復習	『更級日記』 『蜻蛉日記』 『和泉式部日記』 『大鏡』 +歌論書 ○便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。	○	○	○	24
	B★中国文化を理解する ★漢文の句形の復習 ★漢字に強くなる	漢詩 「李白・杜甫・白居易他」 史伝 「項羽と劉邦」 「鴻門の会」 ○便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。	○	○	○	22
	定期考査						○	○		2
3 学 期	A★古典の世界を探究する ★『源氏物語』から当時の人の 人生を読む。 ★敬語・助詞の復習	『大鏡』 『源氏物語』 +近世の俳諧 ○便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。	○	○	○	14
	B★漢文の世界を探究する ★「史伝」から当時の人の 人生を読む。 ★漢文の句形の復習	史伝 「項王の最後」 +「長恨歌」 小説 「定伯売鬼」 ○便覧・端末の活用	○	○	○	声を出して読む。 ノートの作成・提出。 宿題の提出。 小テストの実施。 ○プリントまたはレポートの提出。	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1
									合計	117

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用）教科 地理歴史 科目 日本史探究

教科： 地理歴史 科目： 日本史探究 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 2 学年 B 組～ C 組

教科担当者： (B組：服部文字) (C組：服部文字)

使用教科書： (詳説 日本史 日本史探究 (山川出版社))

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域の特徴と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察し、社会課題の解決に向けて構想し、表現、議論する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身につける。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現とのつながりなどに着目して、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて考察、構想したことを説明したり、議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<p>【知識及び技能】 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、主体的に追究しようとしている。</p>	<p>第10章 幕藩体制の動揺 3 幕府の衰退と近代への道 第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足 歴史資料と近代・現代の展望 ・五箇条の誓文と国是 ・貿易の変遷からみる日本の近代・現代</p>	<p>【知識及び技能】 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	19
	定期考査			○	○		1
	<p>【知識及び技能】 諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、議会開設に至る過程を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 国内体制を欧米の水準に合わせることを改革の前提にあつたことを踏まえ、多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、課題を見出し、主体的に追究しようとしている。</p>	<p>第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立 第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係</p>	<p>【知識及び技能】 諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 国内体制を欧米の水準に合わせることを改革の前提にあつたことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	22
定期考査			○	○		1	
2 学 期	<p>【知識及び技能】 第一次世界大戦後の中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 対外戦争がもたらした変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。</p>	<p>第13章 近代国家の展開 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制 第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達</p>	<p>【知識及び技能】 ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。</p>	○	○	○	24
	定期考査			○	○		1
	<p>【知識及び技能】 諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、主体的に課題を追究しようとしている。</p>	<p>第14章 近代の産業と生活 3 市民生活の容容と大衆文化 第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦</p>	<p>【知識及び技能】 国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。</p>	○	○	○	22
定期考査			○	○		1	
3 学 期	<p>【知識及び技能】 戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 戦後の諸改革について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。</p>	<p>第16章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和</p>	<p>【知識及び技能】 第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 連合国の対日占領政策について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	15
	<p>【知識及び技能】 諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返り、次の学習へのつながりを見出そうとしている。</p>	<p>第17章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ</p>	<p>【知識及び技能】 国内政治について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけて、その結果を表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習している。</p>	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
						合計	117

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 世界史探究

教科： 地理歴史 科目： 世界史探究 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ C 組

教科担当者： （選択クラス：江藤

使用教科書： （世界史探究（東京書籍）

教科 地理歴史

の目標：

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特徴と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察し、社会課題の解決に向けて構想し、表現、議論する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 世界史探究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
歴史に関する理解を深め、諸資料から歴史に関する情報を読み取り、活用する能力を身につける。	歴史に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えて、諸課題を考察する歴史的思考力を培う。	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に貢献できる資質と能力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	評価			配当 時数
				知	思	態	
1 学 期	歴史の世界 オリентと地中海世界 定期考査	人類の進化、オリент世界の展開とその特徴を理解できる。地中海一帯の地理的特徴とエーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解できる。	関・知・技・思 小テスト 定期テスト 提出物 発問	○	○	○	20
	オリентと地中海世界 アジア・アメリカの古代文明 定期考査	都市国家から大帝国に発展したローマ文明の特徴を理解できる。 南アジア世界の形成過程を理解できる。東南アジアの諸民族独自の歩みや国家形成を、南アジア・中国からの影響と関連させながら理解できる。中国文明の起源、殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解できる。	関・知・技・思 小テスト 定期テスト 提出物 発問	○	○	○	22
	定期考査			○	○	○	1
	内陸・東アジア世界の形成 定期考査	東アジアにおける北方遊牧民の動向と、三國時代から魏晉南北朝という中国の分裂と動乱の時代、隋唐帝国の成立を理解できる。	関・知・技・思 小テスト 定期テスト 提出物 発問	○	○	○	24
2 学 期	定期考査			○	○	○	1
	イスラーム世界の形成と発展 定期考査	イスラーム世界の成立の背景とその特質、アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成、イスラーム世界の拡大過程を理解できる。	関・知・技・思 小テスト 定期テスト 提出物 発問	○	○	○	24
	定期考査			○	○	○	1
	ヨーロッパ世界の形成と発展 定期考査	西ヨーロッパにおける封建社会の形成、ローマカトリック教会の発展、ビザンツ帝国やスラヴ人諸国家による東ヨーロッパ世界の形成、十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向について理解できる。	関・知・技・思 小テスト 定期テスト 提出物 発問	○	○	○	17
3 学 期	内陸・東アジア世界の展開 定期考査	東アジア諸地域の勢力交替と宋の興亡、モンゴル帝国の形成とその影響を理解できる。	関・知・技・思 小テスト 定期テスト 提出物 発問	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1
	合計 122						

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 地理探究

教科： 地理歴史 科目： 地理探究 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ C 組

教科担当者：（A組：堀越） （B・C組：堀越）

使用教科書：（新詳地理探究（帝国書院））

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特徴と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察し、社会課題の解決に向けて構想し、表現、議論する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 地理探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。地図をはじめとする諸資料を用いて、地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、地理に関する理解を深め、活用する能力を身に付ける。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準 ①=知・技、②=思・判・表、③=主	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1部第1章 自然環境 ①. 地形、気候、生態系などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②. 地形、気候、生態系などに関わる諸事象について、場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現すること。 ③. 自然環境について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとする。	地球環境と人間 地形 気候 日本の自然環境 地球環境問題	①. 地形、気候、生態系などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ②. 地形、気候、生態系などに関わる諸事象について、場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現している。 ③. 自然環境について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	第2章 資源と産業 ①. 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②. 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現すること。 ③. 資源、産業について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとする。	農林水産業 食料問題 エネルギー・鉱産資源 資源・エネルギー問題 工業 第3次産業	①. 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ②. 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現している。 ③. 資源、産業について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとしている。	○	○	○	22
定期考査				○	○		1
2 学 期	第3章 交通・通信と観光・貿易 ①. 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や交通・通信・観光に関する問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②. 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現すること。 ③. 交通・通信・観光について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとする。	交通・通信 観光 貿易と経済圏	①. 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や交通・通信・観光に関する問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ②. 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現している。 ③. 交通・通信・観光について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとしている。				
	第4章 人口、村落・都市 ①. 人口、村落・都市などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②. 人口、村落・都市などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現すること。 ③. 人口、村落・都市について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとする。	人口 人口問題 村落と都市 都市・居住問題	①. 人口、村落・都市などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ②. 人口、村落・都市などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現している。 ③. 人口、村落・都市について、より良い社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとしている。	○	○	○	24

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 数学科 科目 数学Ⅱ

教科： 数学科 科目： 数学Ⅱ 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ C 組

教科担当者： (A～C組：野並)

使用教科書： (数研出版 数学Ⅱ)

教科 数学科 の目標：

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

科目 数学Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列や統計及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力。関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力。離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力。確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力。を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度。粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
数列 ○数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 ○和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。 ○数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和 6 和の記号 Σ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和 9 漸化式 10 数学的帰納法	【知識・技能】 ○数列の定義、表記について理解している。 ○数列に関する用語、記号を適切に用いることができる。 ○等差数列の公差、一般項などを理解している。 ○初項と公差を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。 ○等差数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。 ○自然数の和、奇数の和、偶数の和などが求められる。 ○等比数列の公比、一般項などを理解している。 ○初項と公比を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。 ○等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 ○等比数列の和の公式を利用して、和の値から数列の一般項を求めることができる。 ○記号 Σ の意味と性質を理解し、数列の和が求められる。 ○ k 項を k の式で表して、初項から第 n 項までの和が求められる。 ○階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 ○数列の和 S_n と第 n 項 a_n の関係を理解し、数列の一般項が求められる。 ○階差数列利用、和 S_n 利用では、初項の扱いに注意して一般項が求められる。 ○和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。 ○漸化式の意味を理解し、具体的に項が求められる。 ○漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。 ○おき換えを利用して、漸化式から一般項を求めることができる。 ○初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 ○数学的帰納法を用いて等式、不等式、自然数に関する命題を証明できる。 ○ $n \geq k$ の場合に成り立つ不等式を、数学的帰納法を用いて証明できる。 ○ある整数の倍数であることを、文字を用いて表現できる。 【思考・判断・表現】 ○数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。 ○等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。 ○等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。 ○数列の和を記号 Σ で表して、和の計算を簡単に行うことができる。 ○和 Σrk について、既に学んだ等比数列の和と捉えて求めることができる。 ○数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。 ○初項から第 n 項までの和に着目して、一般項を考察できる。 ○群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。 ○初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。 ○複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。 ○自然数 n に関する命題の証明には、数学的帰納法が有効なことを理解している。 ○数学的帰納法で証明した命題について、別の方法で証明してそれらと比較するなど、多面的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。 ○等差中項の性質に興味をもち、問題解決に取り組もうとする。 ○等差数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、等差数列の和の公式を導こうとする意欲がある。 ○等比中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。 ○等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、等比数列の和の公式を導こうとする意欲がある。 ○複利計算に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ○自然数の2乗の和を工夫して求める方法に興味をもち、自然数の2乗の和の公式を導こうとする意欲がある。 ○数列の規則性を、隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。 ○ $f(k+1) - f(k)$ を用いる和の求め方に興味をもち、具体的な問題に活用しようとする。 ○群数列に興味をもち、考察しようとする。 ○おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について、考察しようとする。 ○ $a_{n+1} = pa_n + q$ を満たす数列の階差数列について、具体的に考察しようとする。 ○数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	○	○	○	41

<p>微分法と積分法 ○微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ○導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。 ○積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 微分係数 2 導関数とその計算 3 接線の方程式 4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減とグラフの応用 6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積 9 体積 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○極値を計算して微分係数を求めるとき、分母のhは10でなく1を正しく理解している。 ○平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 ○微分係数の図形的意味を理解している。 ○定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。 ○導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。 ○導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。 ○変数x, y以外の関数について、導関数が求められる。 ○接点のx座標が与えられたとき、接線の方程式を求められることができる。 ○接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求められることができる。 ○曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。 ○関数の増減や極値を調べるのに、増減表を用いて考察している。 ○導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 ○関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 ○導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 ○最大・最小の応用問題では、変数のとり方、定数項に注意して解くことができる。 ○導関数を利用して、方程式の実数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。 ○不等式 $f(x) \geq 0$ を、関数 $y=f(x)$ の最小値が0以上と読み替えることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平均変化率におけるxの変化量hは負でもよいことを理解している。 ○導関数を表す種々の記号を理解して、それらを適切に使うことができる。 ○点Cから曲線に接線を引き、接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えることができる。 ○接線の傾きで関数の増減が調べられることを理解している。 ○$f'(a)=0$ は、$f(a)$ が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解している。 ○最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。 ○方程式の実数解の個数を、関数のグラフとx軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 ○不等式を、関数のグラフとx軸との上下関係に読み替えて、考察できる。 ○微分法の逆算として不定積分を考察することができる。 ○定積分の性質や等式を、左辺から右辺、右辺から左辺への変形として利用できる。 ○上端がxである定積分を、xの関数とみるることができる。 ○面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかりて考察している。 ○図形の対称性に注目した面積計算をすることができる。 ○関数のグラフとx軸とで囲まれた2つの部分の面積の和を求めることができる。 ○x軸やy軸と軸とする回転体の断面は円となることを理解し、回転体の体積について考察することができる。 				44
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>統計的な推測 ○確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。 ○母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散 3 確率変数の和と積 4 二項分布 5 正規分布 6 母集団と標本 7 標本平均の分布 8 推定 9 仮説検定 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 ○確率変数の確率分布を求めることができる。 ○確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 ○確率変数の期待値E(X)や分散V(X)などの計算式を理解して活用できる。 ○確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。 ○複雑な確率分布の期待値を、確率変数の和の期待値の公式などを利用して求めることができる。 ○確率変数の独立について理解している。 ○独立な確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。 ○独立な確率変数の和の分散を、公式を利用して求めることができる。 ○反復試行の結果を、二項分布を用いて表すことができる。 ○二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。 ○確率密度関数や確率分布の定義を理解し、連続型確率変数について、確率を求めることができる。 ○正規分布に従う確率変数Xを標準正規分布に従う確率変数Zに変換できる。 ○標準正規分布に従う確率変数Zについての確率を求めることができる。 ○標準正規分布表を用いて、正規分布に関する確率の計算ができる。 ○信区間の考え方を活用して、母平均や母比率の推定ができる。 ○仮説検定に関する用語を適切に活用することができる。 ○仮説検定の考え方を活用して、日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえられている。 ○確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。 ○確率変数の和の期待値や分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。 ○具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。 ○正規分布の特徴を理解し、様々な視点からとらえることができる。 ○正規分布を活用して現実のデータについて考察することができる。 ○母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することについて考察できる。 ○信区間と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。 ○標本の大きさnが大きくなると、標本平均がどのような分布になるか直感的に理解した上で、標本平均の値がどの範囲にどれくらいの確率で現れるか推測できることを理解している。 ○大数の法則について理解し、標本の大きさnが大きくなるときの標本平均の分布の変化の様子について考察できる。 ○推定や信頼区間の考え方がわかる。 ○仮説検定の考え方がわかる。 ○片側検定と両側検定の違いを理解し、どちらの検定をするか正しく判断できる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることよき気づき、確率分布について積極的に考えようとする。 ○確率変数の期待値、分散に関する種々の公式を、その定義や既知の公式を用いて導こうとする。 ○2つの確率変数の和や積の期待値、分散に関する種々の公式を、確率変数が独立であるかどうかに注意しながら導こうとする。 ○二項分布に興味・関心を持ち、さいころを投げるなどの具体的事象について考察しようとする。 ○二項分布に従う確率変数の期待値、分散、標準偏差の公式について、確率分布の定義から導こうとする。 ○二項分布のグラフに関心を持ち、調べてみようとする。 ○連続型確率変数について、離散型確率変数との違いに注目して捉えようとする。 ○現実のデータが正規分布に近い分布になることに関心を持ち、様々なデータについて考察しようとする。 ○二項分布について、試行の回数nを大きくしたときの分布曲線の変化をコンピュータで見るとして、正規分布に近づいていく様子を目撃しようとする。 ○現実に行われている様々な調査が全数調査か標本調査か、またその方法を採用しているのにながら興味を持ち、それぞれの調査の特徴を調べたり考えたりしようとする。 ○母集団や標本の特徴を理解しようとする。 ○大数の法則に興味を持ち、標本の大きさnが大きくなるときの分布曲線の変化を、コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。 ○母平均や母比率の推定に関心を持ち、信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察しようとする。 ○仮説検定によって様々な判断ができることに興味を持ち、現実の問題の解決に役立てようとする。 	○	○	○	44
<p>定期考査</p>			○	○		1

2
学
期

3 学 期	1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形	<p>【目標・長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1つの複素数が複素数平面上で1つの点を表すことを理解し、点を複素数平面上に表すことができる。 ○共役複素数を求めることができる。 ○複素数平面上で、実軸、虚軸に関して対称な点を表す複素数が、もとの複素数に対してどのような数であるか、理解している。 ○共役複素数の図形的意味を理解し、zが実数であるための必要十分条件、zが純虚数であるための必要十分条件を理解している。 ○複素数の絶対値と複素数平面上の2点間の距離を求めることができる。 ○複素数の和、差、実数倍を計算することができる。 ○複素数の極形式について理解し、複素数を極形式で表すことができる。 ○複素数の積、商の絶対値、偏角の性質を理解し、それらを求めることができる。 ○複素数の積や商が複素数平面上で何を表すか理解している。 ○ド・モアブルの定理を理解し、複素数のn乗を求めることができる。 ○1のn乗根を求めることができる。 ○線分の内分点や外分点を表す複素数を求めることができる。 ○複素数の方程式について、その意味を考えたり計算したりすることで、表す図形を求めることができる。 ○原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。 ○複素数平面上で半直線のなす角を求めることができる。 ○複素数平面上で3点が一直線上にある条件や四角が垂直に交わる条件を理解し、利用することができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○複素数の絶対値の定義および図形的意味を理解し、説明できる。 ○複素数の和、差、実数倍の、複素数平面上における図形的意味を理解し、説明できる。 ○共役複素数の性質を理解し、また、それらを証明問題に利用することができる。 ○共役複素数や$-z$などを極形式でどのように表すか、その定義から考察できる。 ○複素数のn乗根がらうどうn個存在することを、極形式を用いて考察できる。 ○1のn乗根の求め方をもとに、一般の複素数のn乗根を求めることができる。 ○線分の内分点を表す複素数を活用して、三角形の重心を表す複素数を求めることができる。 ○点と連動して動く点wが描く図形について、その式の意味も含めて考察したり説明したりできる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○複素数平面的定義から、複素数の和、差や実数倍が複素数平面上で何を意味するか自ら考察しようとする。 ○複素数zが実数や純虚数になる条件について、様々な方法で考察しようとする。 ○複素数$z=a+bi$とは別の形で表せることに興味をもち、それらの違いや共通点を自ら見出そうとする。 ○極形式の有用性を理解し、複素数の乗法の図形的意味を理解しようとする。 ○複素数の積の図形的な意味から、ド・モアブルの定理を自ら見出したり証明したりしようとする。 ○複素数のn乗根を複素数平面上で図示し、その特徴を見出そうとする。 ○図形の関係を、複素数の積の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。 ○複素数の方程式が表す図形について、複素数を$x+yi$とおくなどして、複素数の方法で考察しようとする。 				22
	定期考査			○	○	1
					合計	
					156	

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 数学科 科目 数学B

教科： 数学科 科目： 数学B 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ C 組

教科担当者：（A組：天白・野並）（B組：天白・野並）（C組：金田・野並）

使用教科書：（数研出版 数学B）

教科 数学科 の目標：

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

ベクトル、極限の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

科目 数学B の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ベクトル、極限についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力。数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力。図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力。数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<p>平面上のベクトル</p> <p>○向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。</p> <p>○位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。</p>	<p>1 平面上のベクトル</p> <p>2 ベクトルの演算</p> <p>3 ベクトルの成分</p> <p>4 ベクトルの内積</p> <p>5 位置ベクトル</p> <p>6 ベクトルと図形</p> <p>7 ベクトル方程式</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。 ○ベクトルの相等や逆ベクトルの定義を理解し、図の中から探すことができる。 ○ベクトルの和の定義を理解し、それを図示できる。 ○ベクトルの和の計算ができる。 ○ベクトルの差の定義を理解し、それを図示できる。 ○ベクトルの実数倍の定義を理解し、式で表現できる。 ○ベクトルの実数倍の性質をもとに、ベクトルの演算ができる。 ○ベクトルの平行条件を理解し、平行なベクトルを求めることができる。 ○有向線分で表されたベクトルを、2つのベクトルの和、差に表現できる。 ○ベクトルの成分表示の仕組みを理解し、具体的なベクトルを成分表示できる。また、そのベクトルの大きさを求めることができる。 ○成分表示されたベクトルの和、差、実数倍の計算ができる。 ○点の座標とベクトルの成分の関係を理解し、2点で定められるベクトルを成分表示できる。 ○内積が実数であることを理解している。 ○ベクトルの内積の定義を理解し、内積を求めることができる。 ○成分表示されたベクトルの内積を求めることができる。 ○成分表示された2つのベクトルのなす角を、内積を用いて求めることができる。 ○ベクトルの垂直条件を理解し、成分を定めることができる。 ○三角形の面積がベクトルを用いて求められることを理解し、座標平面上の三角形の面積を求めることができる。 ○点の位置を、基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。 ○ベクトルを点の位置ベクトルで表すことができる。 ○内分点、外分点の位置ベクトルを求めることができる。 ○三角形の重心の位置ベクトルを表す公式を理解している。 ○線分の内分点・外分点を位置ベクトルで表す公式を、実際の図形に適用できる。 ○直線のベクトル方程式について、媒介変数を用いて表すことができる。 ○直る1点と直線ベクトルから直線が定まることを理解し、具体的に直線の方程式を求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ベクトルの和、差、実数倍の定義をもとに、それらを組み合わせたベクトルの図示ができる。 ○ベクトルの平行条件を成分表示にも適用し、成分を定めることができる。 ○点の座標とベクトルの成分の関係を、座標平面上の図形の問題に活用できる。 ○ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ○内積の性質を用いて、等式を証明したり、ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。 ○位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。 ○位置ベクトルを活用して、3点が一直線上にあることを証明できる。 ○位置ベクトルの一意性を活用して、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ○ベクトルの内積を活用して、図形の性質を証明できる。 ○点が線分AB上に存在する条件を活用して、点Pの存在範囲を求めることができる。 <p>【主体的に学習に取り込む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常の量で、向きと大きさをもつものがあることに興味をもち、それをベクトルで表現しようとする。 ○ベクトルの演算に興味をもち、数式の演算法則との類似点を考察しようとする。 ○成分表示されたベクトルの演算規則を、ベクトルの演算法則から導き出そうとする。 ○ベクトルの内積の図形的な意味を探ろうとする。 ○内積の性質を、既習の知識を用いて証明しようとする。 ○三角形の面積が内積で表されることに興味・関心をもち、問題解決に利用しようとする。 <p>○内積のもつ物理学的な意味を探ろうとする態度がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○線分ABをm:nに内分する点の位置ベクトルを求める過程を参考に、m:nに外分する点の位置ベクトルを、mとnの大小関係に関わらず自ら求めようとする。 ○様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。 ○ベクトルを用いて図の性質を考察する意欲がある。 ○直線のベクトル方程式を積極的に活用しようとする。 	○	○	○	20
	定期考査				○	○	

<p>空間のベクトル ○平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。</p>	<p>1 空間の座標 2 空間のベクトル 3 空間ベクトルの成分 4 空間のベクトルの内積 5 空間の位置ベクトル 6 空間のベクトルの利用 7 座標空間における球面、直線、平面</p>	<p>【知識・技能】 ○空間における点の表し方を理解し、座標平面や座標軸、原点に関して対称な点の座標を求めることができる。 ○空間の点と原点との距離が求められるようになる。 ○空間図形の中で、等しいベクトルや逆ベクトルを探することができる。 ○空間図形において、ベクトルの和や差を考察することができる。 ○平行六面体におけるベクトルを、和の形で表すことができる。 ○ベクトルの成分表示について、平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し、ベクトルが等しくなるように成分を定めたり、成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。 ○成分表示された空間のベクトルの演算ができる。 ○座標空間の2点で定められるベクトルを成分表示できる。 ○空間のベクトルの内積や、成分表示された2つのベクトルのなす角を求めることができる。 ○平面上のベクトルの内積の性質は、空間においても同様になり立つことを理解している。 ○位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解している。 ○位置ベクトルの一意性を活用して、直線と平面の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ○ベクトルの内積を活用して、図形の性質を証明できる。 ○座標空間における2点間の距離や線分の内分点、外分点の座標、三角形の重心の座標が求められる。 ○座標平面上に平行な平面や、座標軸に垂直な平面の方程式が求められるようになる。 ○いろいろな球面の方程式が求められる。 【思考・判断・表現】 ○空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表される理由について、平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることから説明できる。 ○座標空間の3点で定まる角の大きさを、ベクトルを活用して求めることができる。 ○ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ○空間における図形を、1つの頂点に関する位置ベクトルで考察できる。 ○球面と平面が交わってできる図形を、連立方程式の解の集合として考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○座標空間における点の表し方を、座標平面における点の表し方の拡張として捉えようとする。 ○平面上のベクトルの性質などが空間でも成り立つことから、ベクトルの定義が次元によらないことに興味をもつ。 ○空間のベクトルの成分表示について、平面上のベクトルの成分表示の拡張として捉えようとする。 ○平面上のベクトルの内積の性質が空間でも成り立つことから、内積の定義が次元によらないことに興味をもつ。 ○四面体の重心に興味をもち、その性質を位置ベクトルで考察しようとする。 ○3点が定める平面上の点の位置ベクトルを一般的に考察し、その結果を利用しようとする。 ○座標平面上の図形の方程式について改めて正しく理解し、座標空間についても同じ考え方で図形の方程式について考察しようとする。 ○球面の方程式に興味をもち、一般的な考察をしようとする。 ○ベクトルを用いて平面の方程式を考察する意欲がある。</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>14</p>
<p>定期考査</p>			<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>1</p>
<p>関数 ○分数関数や無理関数の性質を理解し、それを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また、関数の一般的な性質として逆関数や合成関数などについて理解し、事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数</p>	<p>【知識・技能】 ○分数関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 ○分数関数$y=(ax+b)/(cx+d)$を$y=k/(x-p)+q$の形に変形し、漸近線を求めてグラフをかくことができる。 ○グラフを利用することで、分数不等式を解くことができる。 ○無理関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 ○無理関数$y=\sqrt{ax+b}$を$y=\sqrt{a(x-p)}$の形に変形し、グラフをかくことができる。 ○グラフを利用することで、無理不等式を解くことができる。 ○逆関数の定義や求める手順を理解し、種々の関数の逆関数を求めることができる。 ○逆関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。 ○合成関数の定義や求める手順を理解し、種々の関数の合成関数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○分数関数$y=k/(x-p)+q$の表記について、グラフの平行移動とともに理解し、考察することができる。 ○分数関数のグラフと直線の共有点の座標を、連立方程式の実数解に読み替えることができる。 ○分数不等式の解を、グラフと直線の上下関係に読み替えることができる。 ○無理関数$y=\sqrt{a(x-p)}$の表記について、グラフの平行移動とともに理解し、考察することができる。 ○無理関数のグラフと直線の共有点の座標を、連立方程式の実数解に読み替えることができる。 ○無理不等式の解を、グラフと直線の上下関係に読み替えることができる。 ○逆関数の定義から、逆関数の定義域・値域や性質を考察することができる。 ○2つの関数を続けて作用させた関数を、合成関数という1つの関数として考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○分数関数のグラフと直線について、共有点の座標の意味を考え、その求め方を考察しようとする。 ○分数不等式の解の意味を考え、グラフを用いて考察しようとする。 ○無理関数のグラフと直線について、共有点の座標の意味を考え、その求め方を考察しようとする。 ○無理不等式の解の意味を考え、グラフを用いて考察しようとする。 ○逆関数、合成関数の考え方に興味・関心を示し、具体的な問題に取り組もうとする。</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>10</p>
<p>定期考査</p>			<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>1</p>

3 学 期	<p>極限</p> <p>○数列の極限の概念を理解し、様々な数列の極限が求められるようにする。無限級数については、その極限と各項の極限との関係を理解し、正しく考察できるようにする。</p> <p>○数列の極限と関連させて関数の極限について理解し、関連して関数の連続性についても理解するとともに、それらを様々な関数の考察に活用できるようにする。</p>	<p>1 数列の極限</p> <p>2 極限の性質</p> <p>3 無限等比数列</p> <p>4 無限級数</p> <p>5 無限等比級数</p> <p>6 無限級数の性質</p> <p>7 関数の極限 (1)</p> <p>8 関数の極限 (2)</p> <p>9 三角関数と極限</p> <p>10 関数の連続性</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>○数列の極限値の定義を理解している。</p> <p>○簡単な数列の収束、発散を調べ、極限を求めることができる。</p> <p>○収束する数列の極限値の性質を理解し、それを用いて、数列の極限が求められる。</p> <p>○無限等比数列の収束・発散を利用して、様々な数列の極限を求めることができる。</p> <p>○無限等比数列の収束条件を理解し、それを利用できる。</p> <p>○漸化式で表された数列の一般項を求め、数列の極限を求めることができる。</p> <p>○無限級数の表記について理解している。</p> <p>○無限級数の和とは、部分和の作る数列の極限であることを理解し、無限級数の収束、発散を調べられる。</p> <p>○無限等比級数の収束、発散を、公比の値で調べられる。</p> <p>○簡単な関数の$x \rightarrow a$のときの極限を求めることができる。</p> <p>○不定形を解消するなど、関数の式を適切に変形することで、関数の極限を求めることができる。</p> <p>○関数の極限が、正・負の無限大に発散する場合を調べられる。</p> <p>○簡単な関数の$x \rightarrow \infty$のときの極限を求めることができる。</p> <p>○指数関数、対数関数の極限が求められる。</p> <p>○簡単な三角関数の極限について考察できる。</p> <p>○$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin x}{x} = 1$を利用して、三角関数を含む様々な関数の極限値を求めることができる。</p> <p>○定義に基づいて、様々な関数の連続性、不連続性を判定することができる。</p> <p>○連続関数の性質を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○数列の式の変形が容易でない場合、「はさみうちの原理」を用いて極限を考察することができる。</p> <p>○無限等比数列を、公比の値で場合分けし、その極限を考察することができる。</p> <p>○無限等比級数の収束、発散を、既習である等比数列の和の極限を調べること考察できる。</p> <p>○繰り返しを含む図形的な問題に興味をもち、無限等比級数を利用して考察することができる。</p> <p>○無限等比級数の知識を利用して、数学的に循環小数を分数で表すことができる。</p> <p>○不定形を解消するように工夫して式を変形し、関数の極限を求めることができる。</p> <p>○関数の式の変形が容易でない場合、「はさみうちの原理」を用いて極限を考察することができる。</p> <p>○直線的に中間値の定理を理解し、それを用いて方程式の実数解の存在を考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○不定形の数列の式を、不定形を解消するように工夫して変形しようとする。</p> <p>○「はさみうちの原理」を用いて極限を求める方法に、興味・関心をもち、</p> <p>○無限等比数列について、公比の値によって丁寧に場合分けし、極限を調べようとする。</p> <p>○項を「無限に加える」ということを、数学的に定義する方法を理解しようとする。</p> <p>○無限級数の和の性質について理解し、それを用いて無限級数の和を求めようとする。</p> <p>○不定形の関数の式を、不定形を解消するように工夫して変形しようとする。</p> <p>○関数の右側極限、左側極限の考え方に興味・関心をもち、</p> <p>○不定形の関数の式を、不定形を解消するように工夫して変形しようとする。</p> <p>○「はさみうちの原理」を用いて極限を求める方法に、興味・関心をもち、</p> <p>○グラフをかきことで、様々な関数の連続、不連続を考察しようとする。</p> <p>○従来の定理とは異なる、存在定理として中間値の定理に興味・関心を示す。</p>					29
	定期考査				○	○	○	1 合計

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 理科 科目 物理

教科： 理科 科目： 物理 単位数： 3 単位
 対象学年組： 第 2 学年 A 組～ C 組
 教科担当者： 網河 仁志
 使用教科書： （ 第一学習社 物理 ）
 教科 理科 の目標：

- 【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理 の目標：
 物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通じて、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1編 力と運動 【知識及び技能】 運動の表し方についての観察、実験などを通して、物理量の測定と扱い方、運動の表し方、直線運動の加速度について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 運動の表し方について、問題を見出し見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 運動の表し方に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・剛体のつりあい ・さまざまな運動 ・慣性力 ・円運動と万有引力	【知識及び技能】 観察、実験などを通して、剛体のつりあい、慣性力、円運動と万有引力について理解している。また、観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 問題意識を持ち、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	19
	定期考査			○	○		1
2 学 期	1編 力と運動 【知識及び技能】 運動の表し方についての観察、実験などを通して、さまざまな力、力のつり合い、運動の法則、物体の落下運動について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・単振動、運動量、力積とそのはたらきについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・単振動、運動量、力積とそのはたらきに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・単振動 ・運動量と力積 ・運動量保存の法則 ・反発係数	【知識・技能】 観察、実験などを通して、単振動、運動量、力積について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に関わり、見通しをもったり振り返りたりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
2 学 期	2編 電気と磁気 【知識及び技能】 ・電界やコンデンサーについての観察、実験などを通して、電界やコンデンサーについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・電界やコンデンサーについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・電界やコンデンサーに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・静電気 ・電界(電場) ・電位 ・電界の中の物体 ・コンデンサー ・電流	【知識及び技能】 観察、実験などを通して、電界やコンデンサーについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・電界やコンデンサーに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	22
	定期考査			○	○		1
3 学 期	2編 電気と磁気 【知識及び技能】 ・直流回路や磁界についての観察、実験などを通して、直流回路や磁界の利用について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・直流回路や磁界について問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・直流回路や磁界に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・直流回路 ・磁界(磁場) ・電流のつくる磁界 ・電流が磁界から受ける力 ・ローレンツ力	【知識及び技能】 観察、実験などを通して、直流回路や磁界について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	○	○		23
	定期考査			○	○		1
3 学 期	2編 電気と磁気 【知識及び技能】 ・電磁誘導の法則、自己誘導、交流についての観察、実験などを通して、電磁誘導の法則、自己誘導、交流について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・電磁誘導の法則、自己誘導、交流について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・電磁誘導の法則、自己誘導、交流に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・電磁誘導の法則 ・自己誘導と相互誘導 ・交流 ・電磁波	【知識及び技能】 観察、実験などを通して、電磁誘導の法則、自己誘導、交流について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	○	○		24
	定期考査			○	○		1
							合計
							113

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教科： 理科 科目： 化学基礎 単位数： 3 単位
 対象学年組： 第 2 学年 A 組～ C 組
 教科担当者： 新林 圭
 使用教科書： （ 啓林館 「化学基礎」 ）

教科 理科 の目標：
【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎 の目標：
 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、学習内容の原理や法則を正しく理解している。安全に留意し、正しい操作で実験を行うことができる。	化学的な事象から共通点や相違点を見つけ、原理や法則を説明できる。	・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。 ・実験を見通しをもって取り組んでいる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	化学と人間生活との関わり、および、化学が人間生活を支えていることを理解することができる。 元素および原子の構造や分子・イオンについて電子配置をもとに理解する。 化学結合の種類、どのような力で結合しているかなど結合の仕組みについて理解することができる。原子量の定義や計算方法を理解する。物質量の定義を学び、物質量、質量、体積の関係を理解する。	・化学と人間生活 ・物質の構成	【知識及び技能】 ・元素記号、化学式、物質名を正しく書ける。 ・学習内容の原理や法則を正しく理解している。 ・安全に留意し、正しい操作で実験を行うことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・化学的な事象から共通点や相違点を見つけ、原理や法則を説明できる。 ・結合や化学反応を原子・分子の視点で説明できる。 ・物質量を用いて、化学反応を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
	物質量を使って物質の量を換算することができる。基本となる物質の化学式を覚え、化学式の係数を正しくつける。化学変化における量的関係を考えることができる。 酸塩基の代表的な物質を覚え、電離式を正しく書ける。酸・塩基の定義を電離式をもとに説明することができる。水素イオン濃度、pHおよび中和の量的関係を理解することができる。中和滴定の器具の名前、使い方を理解する。未知の濃度の酸の濃度を中和滴定の実験で求める。	・物質の構成 ・物質の変化	【知識・技能】 ・化学反応式の係数を正しく書ける。 ・酸・塩基の定義や中和を説明することができる。 ・安全に留意し、正しい操作で実験を行うことができる。 【思考・判断・表現】 ・化学的な事象から共通点や相違点を見つけ、原理や法則を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。 ・実験を見通しをもって取り組んでいる。	○	○	○	22
定期考査			○	○		1	
2 学期	酸化・還元を学習を通して、酸化数の変化から酸化と還元を判断することができる。 酸化剤と還元剤の代表的な半反応式を書くことができ、半反応式を組み合わせて、酸化還元反応式を組み立てることができる。 ダニエル電池、アルカリ乾電池、鉛蓄電池、燃料電池などの代表的な電池を学ぶ。電池の名前、電極、電解水溶液を覚え、各種での反応をイオン化傾向をもとに考えることができる。 電気分解の陽極、陰極で起こる反応を、電極や水溶液中の物質から推定することができる。	・物質の変化	【知識及び技能】 ・酸化と還元の定義を説明することができる。 ・色々な電池の構成や各極での反応式を正しく書ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。 ・実験を見通しをもって取り組んでいる。	○	○	○	22
	定期考査			○	○		1
	周期表のどの位置にどの元素が配置されているのかを、電子配置をもとに説明できる。典型元素と遷移元素の違いを具体例を挙げて説明できる。非金属元素の単体、化合物の性質を周期表をもとに理解する。無機物質の製法と性質を理解し、無機物質の反応を、酸塩基反応および酸化・還元反応の考え方をを使って理解することができる。	無機物質 非金属元素	【知識及び技能】 ・周期表で各族の元素の位置が正しくわかる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・周期表をもとに各属の性質や反応を説明できる。 ・問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。 ・実験を見通しをもって取り組んでいる。				22
定期考査			○	○		1	
3 学期	典型金属の単体、化合物の性質を周期表をもとに理解する。アルカリ金属、アルカリ土類金属、両性元素の性質、反応の類似点、相違点を比較しながら学ぶ。 遷移金属の代表的な元素を覚え、その元素の単体、化合物の性質、反応を類似点、相違点を比較しながら学ぶ。金属イオンの確認方法を学び、複数の金属イオンが混合した水溶液から系統的に金属イオンを分離する方法を理解する。	無機物質 ・典型元素 ・遷移元素	【知識及び技能】 ・周期表で各族の元素の位置が正しくわかる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・周期表をもとに各属の性質や反応を説明できる。 ・問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。 ・実験を見通しをもって取り組んでいる。				24
	定期考査			○	○		1
							合計
							113

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用）教科

理科

科目 生物

教科：理科

科目：生物

単位数：3 単位

対象学年組：第 1 学年 B 組～ C 組

教科担当者：（A組： ） （B組：倉澤武義） （C組：倉澤武義） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書：（生物 東京書籍 ）

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1. 動物の刺激の受容と反応 【知識及び技能】 動物の刺激の受容と反応について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。動物が環境の変化を受容し適切な反応を行うしくみを細胞レベルと分子レベルで理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の環境応答について、観察、実験などを通して探究し、科学的な思考力を身に付け、表現する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 話し合い、レポートの作成、発表を適宜行わせ、生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	以下の内容を十分に理解できる。また、実験や観察を通して、生物について考察できる。 1. 刺激の受容から反応への流れ 2. ニューロンの興奮 3. 興奮の伝達 4. 興奮の受容と感覚 5. 刺激の受容と感覚 6. 中枢神経系での情報処理 7. 効果器	【知識・技能】 定期考査の素点 小テスト 【思考・判断・表現】 定期考査の素点 授業ノートの内容評価 実験レポートの内容評価 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の対話 授業ノート・実験レポートの提出状況	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	2. 動物の行動 【知識及び技能】 動物の行動について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。動物の行動について、基本的な概念や原理・法則などを理解させる。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 動物の行動について、観察、実験などを通して探究し、多様な動物の行動生物がもつ共通の特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 話し合い、レポートの作成、発表を適宜行わせ、生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	以下の内容を十分に理解できる。また、実験や観察を通して、生物について考察できる。 1. 動物の行動とは 2. 刺激の受容と行動 3. 学習のしくみ	【知識・技能】 定期考査の素点 小テスト 【思考・判断・表現】 定期考査の素点 授業ノートの内容評価 実験レポートの内容評価 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の対話 授業ノート・実験レポートの提出状況	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	3. 植物の環境応答 【知識及び技能】 植物の環境応答について、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 植物の環境応答について、観察、実験などを通して探究し、神経系の働きと行動との関係を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 植物の環境応答に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と自然環境の保全に寄与する態度を養う。	以下の内容を十分に理解できる。また、実験や観察を通して、生物について考察できる。 1. 被子植物の生殖と発生 2. 植物の一生の出来事と環境の影響 3. 植物ホルモンと光受容体 4. 環境要因による発芽の調節 5. 茎や根の成長と環境要因の影響 6. 気孔の開閉の調節と環境要因の影響 7. 花芽形成と環境要因の影響 8. 果実の形成と成熟のしくみ 9. 器官の老化と脱落のしくみ	【知識・技能】 定期考査の素点 小テスト 【思考・判断・表現】 定期考査の素点 授業ノートの内容評価 実験レポートの内容評価 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の対話 授業ノート・実験レポートの提出状況	○	○		11
	定期考査			○	○		1

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

保健体育 科目 体育

教科： 保健体育 科目： 体育

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 A 組～ C 組

教科担当者： (ABC組男子： 峯岸) (ABC組女子： 吉見)

使用教科書： (701現代高等保健体育 (大修館書店))

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>体育理論</p> <p>【知識】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ 	<p>【知識】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができた。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組んだ。</p>	○	○	○	2
<p>体づくり運動</p> <p>【知識及び技能】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐし運動 ・実生活に生かす運動の計画 	<p>【知識及び技能】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができた。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができた。</p>	○	○	○	2
<p>球技・ゴール型 (バスケットボール)</p> <p>【知識及び技能】 パス、ドリブルなどのボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入し、シュートにつなげることができる。システムを理解し、集団的技能としてチームで連携した防御ができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などにおいて自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 バスケットボールに主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。また互いに助け合い教え合おうとすることなどや健康・安全を確保することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パス、ドリブル、シュート等の個人技能を向上させ、それらの技能や仲間と連携した動きを用いて、ゲームにおける攻防を行う。 	<p>【知識及び技能】 パス、ドリブルなどのボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入し、シュートにつなげることができる。システムを理解し、集団的技能としてチームで連携した防御ができた。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などにおいて自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができた。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 バスケットボールに主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。また互いに助け合い教え合おうとすることなどや健康・安全を確保することができた。</p>	○	○	○	16
<p>陸上競技 (やり投げ、ハードル)</p> <p>【知識及び技能】 やり投げ、ハードル走の種目について、記録の向上や競争の楽しさ・喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解するとともに、それぞれの種目特有の技能を身に付けることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、自己の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たすことができる。また、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切に、健康・安全を確保できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やり投げは、やりの握り方、やりの保持、やりの引き戻しなどの基本動作を身につけ、やりの突き刺しから試合用の投げまで発展させる。 ・ハードル走は、振り上げ脚・抜き脚の基礎技能を習得し、正しくハードルを走り越すことができるようになる。 	<p>陸上競技 (やり投げ、ハードル)</p> <p>【知識及び技能】 やり投げ、ハードル走の種目について、記録の向上や競争の楽しさ・喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解するとともに、それぞれの種目特有の技能を身に付けることができた。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、自己の考えたことを他者に伝えることができた。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たすことができた。また、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切に、健康・安全を確保できるようにした。</p>	○	○	○	16
<p>水泳</p> <p>【知識及び技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たすこと、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど自ら健康・安全を確保しようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳の4種類の泳法をつなげた個人メドレーを学習する。 ・スタート、ターン、フィニッシュの技能を習得し、100m個人メドレーの完泳を目指し、記録向上に挑戦する。 	<p>【知識・技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができた。</p> <p>【思考・判断・表現】 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができた。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たすこと、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど自ら健康・安全を確保しようとしていた。</p>	○	○	○	12

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

保健体育

科目 保健

教科： 保健体育

科目： 保健

単位数： 1 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ C 組

教科担当者：（ A 組 B 組：増野 ） （ C 組：佐川 ）

使用教科書：（ 701現代高等保健体育（大修館書店） ）

教科 保健体育

の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<p>生涯を通じる健康</p> <p>【知識】 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解する。 労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康 	<p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解できた。 ・労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解した。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができた。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組んだ。 	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1

2 学 期	<p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切なテーマ設定ができる。 テーマについて、資料等から正しい知識を収集することができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>それぞれのテーマについて課題を見つけ出し、現状と問題点をグループで分担しながら調べを進めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自が調べたものをグループとしてレポートにまとめることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマについて関心をもって、グループで協力しながら、積極的に課題に取り組もうとする。 	<p>現代社会と健康、安全な社会生活、生涯を通じる健康と、以下の健康を支える環境づくりから学習テーマを設定し、テーマについてのレポート作成及び、そのテーマについてディベートを行う準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大気汚染と健康 水質汚濁と土壌汚染と健康 健康と健康に関わる対策 ごみの処理と上下水道の整備 食品の安全性 食品衛生に関わる活動 保健サービスとその活用 医療サービスとその活用 医薬品の制度とその活用 さまざまな保健活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加 	<p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切なテーマ設定ができた。 テーマについて、資料等から正しい知識を収集することができた。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>それぞれのテーマについて課題を見つけ出し、現状と問題点をグループで分担しながら調べを進めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自が調べたものをグループとしてレポートにまとめることができた。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマについて関心をもって、グループで協力しながら、積極的に課題に取り組もうとした。 	○	○	○	16
3 学 期	<p>【知識】</p> <p>他のグループのディベートを聴講し、テーマにおける課題と肯定側および否定側の主張を理解することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(ディベート班)</p> <p>班で用意したことをそれぞれの発表分担と自由討論で積極的に発言できる。</p> <p>(聴衆者)</p> <p>ディベートを聞きながら、その合理性を判断し、自らの見解を構築することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>班の仲間と協力して、ディベート発表に積極的に取り組むことができる。</p> <p>ディベートの司会、記録、判定の集計を協力して行うことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ディベート発表及び考察 各グループは40分程度でディベートを行う。 発表グループはレジメを事前に提出する。 聴衆者は毎回のディベートを聞き、自分の考えをまとめるとともに相互評価を行う。 	<p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他のグループのディベートを聴講し、テーマにおける課題と肯定側および否定側の主張を理解することができた。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> (ディベート班) 班で用意したことをそれぞれの発表分担と自由討論で積極的に発言できた。 (聴衆者) ディベートを聞きながら、その合理性を判断し、自らの見解を構築することができた。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 班の仲間と協力して、ディベート発表に積極的に取り組むことができた。 ディベートの司会、記録、判定の集計を協力して行うことができた。 	○	○	○	9
							合計
							39

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅡ

教科： 外国語 科目： 英語コミュニケーションⅡ 単位数： 3 単位
 対象学年組：第 2 学年 A 組～ C 組
 教科担当者：（A組： 斉藤 ） （B組： 白石 ） （C組： 白石 ）
 使用教科書：（ ELEMENT Ⅱ English Communication Ⅱ, Cutting Edge (BLUE), Stock 3000・4500, Reading Flash 2 ）
 教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションの行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 （ 「 や 」 ）	話 （ 「 発 」 ）	書					
1 学 期	<p>【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関する語彙を理解する。英語らしい発音を理解し、聞き取る。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 全体のパラグラフ構成を見通しながら、本文の内容が理解できる。また本文に関連した英作文が書けるようになる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度が身につく。</p>	Lesson 1 Cultures around the world Lesson 2 Power of Words ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	① 定期考査：中間・期末 ② Stock 3000/4500英単語テスト ③ Element 単語テスト ④ 音読テスト ⑤ Essay Writing ⑥ 提出物等	○	○	○	17
	定期考査		○	○			○				1	
	<p>【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関する語彙を理解する。英語らしい発音を理解し、聞き取る。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 全体のパラグラフ構成を見通しながら、本文の内容が理解できる。また本文に関連した英作文が書けるようになる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度が身につく。</p>	Lesson 3 Preconception Lesson 4 The Century of War ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	① 定期考査：中間・期末 ② Stock 3000/4500英単語テスト ③ Element 単語テスト ④ 音読テスト ⑤ Essay Writing ⑥ 提出物等	○	○	○	23
定期考査		○	○			○					1	
2 学 期	<p>【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関する語彙を理解する。英語らしい発音を理解し、聞き取る。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 全体のパラグラフ構成を見通しながら、本文の内容が理解できる。また本文に関連した英作文が書けるようになる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度が身につく。</p>	Lesson 5 How Our Minds Work Lesson 6 IT and Life ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	① 定期考査：中間・期末 ② Stock 3000/4500英単語テスト ③ Element 単語テスト ④ 音読テスト ⑤ Essay Writing ⑥ 提出物等	○	○	○	23
	定期考査		○	○			○				1	

1 期	<p>【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関する語彙を理解する。英語らしい発音を理解し、聞き取る。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 全体のパラグラフ構成を見通しながら、本文の内容が理解できる。また本文に関連した英作文が書けるようになる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度が身につく。</p>	<p>Lesson 7 Advances in Medical Technology</p> <p>Lesson 8 A Tiny Step, a Big Impact</p> <p>・一人1台端末の活用</p>	○	○	○	○	○	○	<p>① 定期考査：中間・期末</p> <p>② 単元小テスト (Grand View)</p> <p>③ 文法確認テスト (Vintage)</p> <p>④ Essay Writing</p> <p>⑤ Presentation</p> <p>⑥ 提出物等</p>	○	○	○	23
	定期考査		○	○						○	○	○	1
3 学 期	<p>【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関する語彙を理解する。英語らしい発音を理解し、聞き取る。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 全体のパラグラフ構成を見通しながら、本文の内容が理解できる。また本文に関連した英作文が書けるようになる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度が身につく。</p>	<p>Cutting Edge (BLUE)</p> <p>大学入試問題演習</p> <p>・一人1台端末の活用</p>	○	○	○	○	○	○	<p>① 定期考査：学年末</p> <p>② Stock 3000/4500英単語テスト</p> <p>③ Cutting Edge 単語テスト</p> <p>④ 音読テスト</p> <p>⑤ Essay Writing</p> <p>⑥ 提出物等</p>	○	○	○	26
	定期考査		○	○						○	○	○	1
												合計	
												117	

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 外国語 科目 論理・表現Ⅱ

教科： 外国語 科目： 論理・表現Ⅱ 単位数： 3 単位
 対象学年組：第 2 学年 A 組～ C 組
 教科担当者：（A組：小坂・白石）（B組：小坂・横田）（C組：小坂・横田）
 使用教科書：（ Grand View 48 ワークブック, Write to the Point, Focus on Listening, リンケージ, 英語構文 100, Vintage ）
 教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 論理・表現Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションの行う目的や場面、状況などに応じて、日常な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図のなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕	書					
1 学 期	【知識及び技能】 文の種類、文型、時制を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文の種類、文型、時制を用いた英作文が書けるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に英語を使用して表現しようとする姿勢が身につく。	1. 文の種類 2. 文型 3. 時制 ・副教材『Grand View English Grammar in 48 Stages』同単元 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	① 定期考査：中間・期末 ② 単元小テスト (Grand View) ③ 文法確認テスト (Vintage) ④ Essay Writing ⑤ Presentation ⑥ 提出物等	○	○	○	17
	定期考査		○	○			○		○	○	○	1
	【知識及び技能】 完了形、助動詞を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 完了形、助動詞を用いた英作文が書けるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に英語を使用して表現しようとする姿勢が身につく。	4. 完了形 5. 助動詞 ・副教材『Grand View English Grammar in 48 Stages』同単元 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	① 定期考査：中間・期末 ② 単元小テスト (Grand View) ③ 文法確認テスト (Vintage) ④ Essay Writing ⑤ Presentation ⑥ 提出物等	○	○	○	23
	定期考査		○	○			○		○	○	○	1

2 学 期	<p>【知識及び技能】 受動態、不定詞、動名詞を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 受動態、不定詞、動名詞を用いた英作文が書けるようになる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 積極的に英語を使用して表現しようとする姿勢が身につく。</p>	<p>6. 受動態 7. 不定詞 8. 動名詞</p> <p>・副教材『Grand View English Grammar in 48 Stages』同単元 ・一人1台端末の活用</p>	○	○	○	○	○	○	<p>① 定期考査：中間・期末 ② 単元小テスト (Grand View) ③ 文法確認テスト (Vintage) ④ Essay Writing ⑤ Presentation ⑥ 提出物等</p>	○	○	○	23
	定期考査		○	○				○		○	○	○	1
	<p>【知識及び技能】 分詞、関係詞を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 分詞、関係詞を用いた英作文が書けるようになる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 積極的に英語を使用して表現しようとする姿勢が身につく。</p>	<p>9. 分詞 10. 関係詞</p> <p>・副教材『Grand View English Grammar in 48 Stages』同単元 ・一人1台端末の活用</p>	○	○	○	○	○	○	<p>① 定期考査：中間・期末 ② 単元小テスト (Grand View) ③ 文法確認テスト (Vintage) ④ Essay Writing ⑤ Presentation ⑥ 提出物等</p>	○	○	○	23
定期考査		○	○				○		○	○	○	1	
3 学 期	<p>【知識及び技能】 文の種類、文型、時制を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 文の種類、文型、時制を用いた英作文が書けるようになる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 積極的に英語を使用して表現しようとする姿勢が身につく。</p>	<p>11. 比較 12. 仮定法</p> <p>・副教材『Grand View English Grammar in 48 Stages』同単元 ・一人1台端末の活用</p>	○	○	○	○	○	<p>① 定期考査：学年末 ② 単元小テスト (Grand View) ③ 文法確認テスト (Vintage) ④ Essay Writing ⑤ Presentation ⑥ 提出物等</p>				26	
	定期考査		○	○			○		○	○	○	1	
												合 計	
												117	